



ひとりでがんばらなくてもよい社会をめざして

学校での 「がん教育」が 持つ力

2人に1人ががんにかかる時代。

教育現場でも、がんについて伝える取り組みが広がっています。

「がん教育」は新学習指導要領にも盛り込まれ、
2021年からは中学校で、2022年からは高校で
全面的に実施されることになりました。

乳がんのサバイバーとしてさまざまな学校を訪れ、
子どもたちへがんについて伝えてきた
桜井なおみさんにお話をうかがいました。

桜井なおみさん

キャンサー・ソリューションズ(株)
代表取締役社長
一般社団法人
CSRプロジェクト 代表理事

大学卒業後、コンサルティング
会社にてまちづくりや環境教育、
費用対効果などの業務に従事。
2004年の乳がん罹患後は、自
らのがん経験や社会活動を生
かし、小児がんを含めた患者・
家族の支援活動を開始、現在
に至る。小・中・高等学校での
がん教育外部講師も行っている。
『あのひとががんになったら』な
ど、著書も多数。



子どもたちと一緒に“がん啓発”の一步先へ

私 が外部講師として教壇に立ち始
めた10年ほど前に比べて、「が
ん教育」はずいぶん広がってきました。
その背景には、がんにかかる人が増え続
けていること、それに関わらず、検診の
受診率が一向に上がらないこと、とくに、
新規の受診者が増えないことへの問題
意識があります。また、教育現場でもい
じめなど、さまざまな課題がありました。
子どもたちに命の大切さや、がん予防の
知識を今のうちに伝えておくことができ
れば、将来の罹患リスクはきっと下が
りますよね。また、子どもたちが学校で聞
いたがんの話や家に持ち帰ることで、家
族みんなの健康への意識が高まる可能
性もあります。実際、がんの授業を受け
た子どもたちが、両親や祖父母に「検診、

受けてね」と声をかけるのはよくあるケ
ース。持病のことを打ち明けかねていた親
御さんから「子どもに病気の話をするき
っかけができて助かった」というお話を
聞いたこともあります。

で も、私が本当に伝えたいのは、そ
の一步先。病気や障がいをもっ
ている人たちとともに、多様性を大切に
しながら一緒に暮らしていくこと。その
なかで、困ったときは誰もが「助けて」と
言える空気をつくっていくこと。その必
要性を子どもたちに伝えたいと思い続け
てきました。

というのも、私は治療していたとき、目
の前にある重たい石をひとりで持ち上げ
ようとしていたんですよ。結局、持ち上げ
きれなくて、諦めてしまったのですが。あ

のとき、細かく砕けば、手分けして持っ
てくれる人はたくさんいたはず。でも「助け
て」って言えなかったんですよね。
誰にだって、できることとできないことが
あるでしょう？ できないことがあったら、
助けを求めればいい。まわりの人も、自
分にできることがあれば、助けてあげれ
ばいい。それは、私が「がん教育」のなか
で一番に伝えたいことです。



「主役はあなたたち。何を言ってもいいんだよ」

授業をするうえで、私が大切にしていることは2つあります。ひとつは、がんを正しく伝えること。正確な知識を身につけることは、誤解を排することにもつながりますから。

たとえば、がんは「予防さえすれば防げる」という病気ではありませんよね。予防はとても大事なことです、気を付けていてもかかる人はかかります。でも、小学生くらいの子どもに「物事には例外も、不確かなこともあるんだよ」ということを理解してもらうのは難しい。だから、野菜もいっぱい食べていたし、煙草も吸っていなかったけれどがんにかかってしまった、私のような存在が良い材料になるのです。がんは決して“自業自得”ではなく、誰もがかかり得る病気だって実感してもらえますから。

もうひとつは、子どもを主役にする。だから、がんサバイバーが一方的に体験談を話すような「がん教育」ではなく、子どもたちが「がんになった人や家族の気持ち」や多様性を考え、自分の気持ちや知りたいことを言葉にできる場が必要だと思うのです。

たとえば、私が小学校に行くと、子どもたちが興奮して「わあ、がんの患者さんが来たよー!」と大騒ぎすることがあります。私は、子どもたちのそんな好奇心を信じたい。だから、授業は「質問100連発OK!」なんて言うこともあります。「主役はあなたたち。あなたたちの場所に私が入れてもらっているんだから、何でも言ってもいいんだよ」と伝え、いろいろな言葉が出てくるんです。子どもから出てきたものは、どんな言葉であれ、否定しないで受け止めることが大切です。印象に残っているのは、特別支援学級で授業をしたときのこと。「できていたことができなくなったとき、どう思いましたか?」とか、「生きることがつらいと思ったのは、どんなときですか?」なんていう質問が出てきて驚きました。ああ、この子どもたちは、そういう気持ちを経験してここにいるんだなって。その気持ちをありのままに出してくれたことが、すごくうれしかったですね。私が話したことも、うんうんって聞いてくれて、お互いを肯定しあう場になりました。一方的に語る講演会だと、こうはいかないものです。



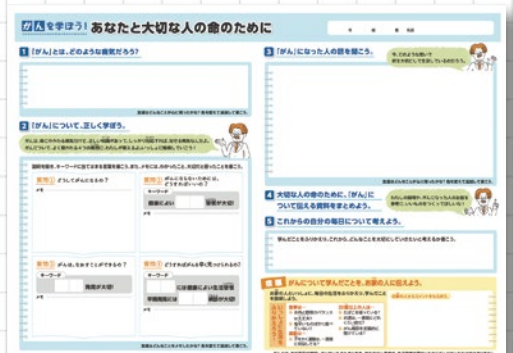
ひとりでがんばらなくていい、と思える社会を

教室には、小児がんの当事者や、家族をがんで亡くした子がいることもあります。「がんは正しい生活習慣で防げる」という話ばかりすれば、責められているように感じてしまうこともあるでしょう。学校側は「話を聞くことがつらかったら教室から出てもいい」と指導しているようですが、ひとりで教室から出て行くな、傷つきますよね。私が伝えたいのは「みんなと違う気持ちがあってもいいん

だよ。それで苦しくなってしまったときは、誰かに伝えよう。みんなでその気持ちを分かち合って、助け合っていこうよ」ということ。だからこそ、どの子も教室から出てなくていい授業をしたいと思っています。最近の子どもたちは何でも抱え込みがちですが、ひとりでがんばらなくてもいいんです。みんなで力を合わせれば2倍、3倍になることがたくさんあるということに、授業を通して気づいてもらいたいです。



授業中のひとコマ。軍手とゴム手袋をはめることで、がんの副作用のひとつである「指先のしびれ」を疑似体験する。



文部科学省作成の、がん教育の授業で使えるワークシート(小学生版)
出典／文部科学省「がん教育のための教材 補助教材」



Information



今年も開催

がん経験者とがん専門相談員による
トークセッションをLIVE配信

がんになったときの悩みって？
相談はどうしたらいいの？

～サポートがあることを知っていますか～

NPO法人がんノート代表の
岸田徹さんを進行役に、2名
のがん経験者とがん専門相
談員が参加するトークセッ
ションをLIVE配信します。

がんに関するさまざまな疑問
や悩みごとを相談できる「がん相談支援センター」を紹介しながら、家族や
友人とのこと、仕事やお金に関する悩みや情報収集について、がん経験者
やがん専門相談員の生の声をお届けします。



昨年の配信画面

トークセッション参加者

岸田 徹さん (NPO法人がんノート 代表理事)

清水 佳佑さん (肺がん経験者／2児の父)

佐々木 香織さん (大腸がん経験者／2児の母)

坂本 はと恵さん (国立がん研究センター東病院 がん相談支援センター 相談員)

配信
日時

2022年11月12日(土)
10:00～12:00

詳しくはこちらをご覧ください

https://www.palsystem-kyosai.coop/information/20221112_cancer.html



ありがとうの バトン

パルシステム共済連「ささえあい基金」助成金
をうけた団体から届いた、自分たちの活動や
助成金への思いを紹介します。紹介団体への
応援メッセージ受付中! Webでのアンケートや
ページ下の感想記入用紙を使ってお寄せください。

一般社団法人tenten(福島)

私たちは結婚やパートナーの転勤で
県外から福島県に転入した女性た
ちを対象に、彼女たちの悩みを解消しつ
つ、地域とwin-winの関係を構築すべく
活動を行っています。

活動を行う私たちスタッフもみな転入女
性。かつては同様の悩みを抱えていました。

「知り合いがいらない」という悩みに対して
は、仲間づくりや情報交換を行う座談会「tenten café」を開催。「仕事を見つけ
づらい」という悩みには、在宅ワークの受託やWebライター講座を実施。「地域情
報がキャッチできない」という悩みに対しては、暮らしの情報を発信する独自メデ
ィア「tenten fukushima」を運営し、サポートしています。



tenten caféのようす

ささえあい基金では、転入女性へ向けたWebライター
講座の実施にご支援いただきます。この講座を受けるこ
とで、転入女性がWebライティングのスキルを身につけ、
福島の情報を発信し地域と繋がり、さらにはどこにいても
仕事ができるようになります。

能力と意欲のある転入女性が、どこにいても活躍できる
社会を目指して、ここ福島から頑張ります。



街歩き取材の研修

●ささえあい基金(共済事業での地域づくり支援制度)

生活困窮者や社会的孤立者への支援活動等を行う市民団体やNPOへの助成金制度です。
2022年度は20団体に計983万円の助成を決定しました。
※助成金は組合員からお預かりしたCO・OP共済《たすけあい》の掛金から生まれた剰余金
の一部を活用し、組合員理事・有識者を交えた審査会を経て理事会で承認され使用します。

